※令和４年度以降入学生用

学校番号	325

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校 数学Ｃ　（数研出版）						
副教材等	４プロセス 数学Ⅲ＋Ｃ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して自ら考え、解決していくという活動を行います。
・課題を理解し、解決するための方法を考え、実際に解決する。また、解決の方法によりよいものがないかということを考え、試していきます。
・問題集用のノートを用意してください。
問題集の問題を自分で解いてみましょう。ただ、答えを求めるだけでなく、途中の式も書いていきましょう。また、自分で答え合わせをしていき、どの部分の理解が十分できていて、どの理解の理解が不十分なのか確かめる大切なものです。
・家庭学習における課題は定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	平面上のベクトル	第1節　ベクトルとその演算 ベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積 第2節　ベクトルと平面図形 位置ベクトル ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示	a: ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し，図の中から探すことができる。 b: 点の座標とベクトルの成分の関係を，座標平面上の図形の問題に活用できる。 c: 線分 AB を m：n に内分する点の位置ベクトルを求める過程を参考に，m:n に外分する点の位置ベクトルを，m と n の大小関係に関わらず自ら求めようとする	確認テスト 定期テスト	確認テスト 定期テスト	課題 観察等
	空間のベクトル	空間の点 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用 座標空間における図形	a: 空間における点の表し方を理解し，座標平面や座標軸，原点に関して対称な点の座標を求めることができる b: 位置ベクトルの一意性を活用して，直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 c: 座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し，座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする	確認テスト 定期テスト	確認テスト 定期テスト	課題 観察等
2学期	複素数平面	複素数平面 複素数の極形式 ド･モアブルの定理 複素数と図形	a: 複素数の方程式について，その意味を考えたり計算したりすることで，表す図形を求めることができる。 b: 複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して，三角形の形状について考察できる c: 複素数の積の図形的な意味から，ド･モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。	確認テスト 定期テスト	確認テスト 定期テスト	課題 観察等

※令和４年度以降入学生用

	式と曲線	第1節　2次曲線 放物線 楕円 双曲線 2 次曲線の平行移動 2 次曲線と直線 2 次曲線と離心率 第2節　媒介変数表示と極座標 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 コンピュータの利用	a: 放物線の標準形について理解し，放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また，条件から放物線の方程式を求めることができる。 b: 条件から焦点が x 軸上にあるか y 軸上にあるか判断した上で，楕円の方程式を求めることができる c: サイクロイドについて，具体的な点をプロットするなどして，媒介変数表示や曲線の概形を考察しようとする。	確認テスト 定期テスト	確認テスト 定期テスト	課題 観察等
3学期	数学的な表現の工夫	データの表現方法の工夫 行列による表現 離散グラフによる表現 離散グラフと行列の関連	a: 行列の実数倍の計算ができる。 b: 離散グラフの隣接行列の積が経路の数え上げに利用できることを理解し，経路の数を考察することができる。 c: 離散グラフと行列を対応させることに興味をもち，経路の総数などの考察に積極的に活用しようとする。	確認テスト 定期テスト	確認テスト 定期テスト	課題 観察等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度